十役之抄

四

武者奉行

848
189

欠
入

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

武者奉行附六奉行之

第一

一六奉行の名目起の事

甚始中列流ニ出ッと云ふ未書下巻に六奉行の組と武者奉行二騎雑色

二騎 持槍奉行二騎三役とも六人し

附り 武者奉行は長職なし 旗奉行次に持槍奉行次に

之次第未書下巻行列の所より今井刑部丞同新兵衛沖嶋奉行とあれども

計両人武者奉行とも我ハ旗奉行にて功積り後より武者奉行より稍なり

持槍奉行ハ之次たる事ハ軍法巻より武者奉行稍奉行の

事ハなし 未書下巻より云ふ 持槍奉行の事

事歴代之通 當時江戸より旗奉行槍奉行ハ之次なる

三役たる米幣免許の事

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

848
189

軍法書に武者奉行ハ御大将ト等ノ采幣ハ不持ト云ふけ度と有又御旗奉行ハ采幣ハ絆ーなりとき非書下巻ニ六奉行何も采幣御先と云ハ持給ふも采幣ハ持ル凡采幣ハ士大将足軽大将等の我人数ニ多ク後役ハ那も者ハ必職中ニ同ジ采幣を持ル如キ六奉行ハ武者奉行ハ采幣ハ持中ハ御大将一人ニ多ク諸ものの下知ニ配等中不ル綱ハ武者奉行ハ功者の武士ニ御大将と齊シ采幣ハ先ーハ代デ下知ハ大将ニ多キ武者奉行二人ニ多ク横目の綱役ニ旌ふる両人の目附者一人加ッテ下知ハ先ハ采幣ハ免セ先ハ横不足なる持給ふる者人の目附者一人ハ御旗奉行ト加ッテ勤ルーむ凡ハ故ニ采幣と免セリト知ル

六奉行人数ニ事

三役者二人合テ六人ニして六奉行と号ス我ニ作ニの備ハ非書出ス事ハ五六箇列の人数四万ニおよ軍法ニ出ル所の五ニ三役者三人合テ九人有リ大備ニ五ハ如此の事もあるへし八十人ニ如キ副ふるハ当時河ニても稀ふる

三人陪奉行ハ二人又ハ四人の所もあり作ハ六奉行ハ定法ニ多ク時ニ多寡ふるへし雖波戦ニ武者奉行ハ横尾義濃本田安房花波木彌朝比奈縣道黒田夜使番原隼人原平左衛門作左衛門藤田大学本中田監物長田四郎兵衛長柄奉行真瀬理左衛門角兵衛と云ふ諸備乗廻ニ下知せ役ニ見ユ但甲列流定ニ則ハ職軽キニ似たる長柄奉行と云ふ持給ふ事ニ似たり黒毋衣ノ使番と云ハ甲列ノ總武者奉行ニ似リ總武者奉行ハ甲列流ノ本指ふる化粧ニ同ジ目ふるも人数指ノ多ク危きが故ニ拒ス之ニ六奉行ノ心ハ前後貫通ニテ得知スヘキ事

軍中諸事ハ司馬ニ

大国ノ家老ハ先ノ頭ト指テ別隊ノ附ナル故ニ軍中諸事ノ雑用皆六奉行ハ下知ス支重キニ至ハ先ノ諸将ノ集メ攻戦相法ニ至ハ陣中ノ常法又ハ当ニ変法等ハ皆六奉行ハ下知ス又諸方ハ用ハ辨ニ成ル六奉行ハ達テ支ヲ諸役ふる事ハ一事ノ変ふる事ニ当時大国ノ諸侯東都ハ往来ニ道中

奉行或ハ行列奉行等ノ假役有テ諸用ノ辨ヲ猶軍中六奉行ノ用ヲ辨ヲ乱ニ
似リ諸中ト軍中ハ違ヒ事ハ甚ダ異ニ其ハ似タリ其違フト云者ノ
陣中ニテハ敵ヲ受テ大小ニ不限勝敗ノカハル所アルニヘ大キニ違フ所モアリ未ニ至
旗本ノ分法ヲトヽノヘタル六奉行ヲ云ヘ事ヲ知ベシ

第二巻下ニ見タル先手ノ備ヘノ先ニ六奉行有ヘ毛ヲ出中ノ
士ヲ以テ又ハ旗本ヨリ武功士ヲ指副ヘ事モヲヘ甲州ニ山縣三郎兵衛
手ヘ屬濃義濃三枡肥前守内藤左衛門等ノ別士ヲ副ヘ長同心ヲ付ヘタル条幣ノ
ヲ免スハ六奉行ヲ勤ハシ其他馬場美濃ヲ始メ中川弥三左衛門ヲ繋端ヲ
多有リ又若ハ惣上總真田源左衛門自人数ノ外ヲ組ヲ相備ヲ
先ヲ一方ヲ勤ル備ハ旗本ヨリ副ヘ六奉行ハ無ク手ノ者ヲ以テ奉行ヲ
本藩大坂陣ノ時小場因幡手ヘ旗奉行大平左馬允捨ヲ小姓因幡ヲ
副ヲ云ヘ事餘旗本ヨリ端手ヘ別士ヲ添遣サレ若ハ多ク安房守
政重ハ旗本ヨリ添ラル事ヲ不聞ナリ然ハ其手ノ模様ニヨリ次ノ是ヲ
アルナリ

第二

一武者奉行の名目の事

武田家ニ始テ耶中古以来他国ニモ此名目有 應仁亂後諸国戦争時就中
關東甲信ノ間ニモ事繁ク如是名目モ出来リ諸家總ヲ呼来ル本ナル先徒ヲ
考ニ今義解法ニ軍團ヲ置ニ軍監軍曹等ヲ置ル軍監ハ似タル歟又 鎌倉院
北面ノ武士ヲ置カレシ後 後鳥羽院西面ノ武士ヲ增置カレ是等ノ若キヲ院中ノ松式ヲ
定ヲレ武者所ヲ建ラレ保元平治ノ比伊藤武者祐親或ハ平山武者季重或ハ平家
物語ニ達磨武者盛遠 後鳥羽院高雄ノ主覚也 等武者ノ名目ハ武者所ノ名目是等ヨリ依テ来ル歟
太刀ヲ勾當平正綱ハ寸法ハ尤大ニ頼長ノ侍所ヲ勾當ヲ勤ル或ハ平義一藤祐經ハ故
小松殿ノ侍所ノ職ヲ勤シ齊藤別當實盛ハ宇盛ノ侍所ノ別當職ヲ大ニ家ハ
有侍所ヲ或ハ源頼家ノ蹴鞠ノ師ヲ紀内有行景ハ紀氏ヲ久シテ内舎人ヲ勤
蔵人所ノ所衆所納戸ノ番人ヲ云ヘ所ヲ以ヲ或ハ三宮ノ侍長ヲ云ハ其宮ノ番ヲ勤
武士ノ長ヲ頭ヲ平家物語ニ軍奉行ヲ云ハ武者奉行ニ似ルヲ同書等ニ云

侍大将と云ハ侍長の意耶古例ハ以考ふる侍所の名目まちまちハ番人の方
その名目職別當勾當一臈等ハ共に頭役し侍大将と呼も此方に近し
武者所し名目ハ源ヲ武家ハ用ひ方ニ軍監軍曹軍奉行の類に近耶
甲州流の武者大将武者奉行の名目ハ本ノ大小とはかり分ツト見へ一も来歴ヲ
可知為に論ず前に道中奉行行列奉行の名目治世に起んか如く其実ハ武者
大将軽キハ武者奉行ト呼来ル如へ武者大将ハ先ず備然甲州一馬場
内藤山縣高坂等の如と云武者奉行トハ御大将に齊シク一騎当千知ラル
他家ハ名目ハ同ジ乍ら少シ動メ違ヒあるへ天正ハ甲州の流も多ク
他国へ移り武者大将武者奉行の指別も少ク似たり

附り武者奉行人名の事

傳に云若輩の人ハ以ては流長下知を怪ミ其ヲ用テ年四十と成る者
用ヲ是軍鑑本ノ巻に辻法師が虎頼三科と武辺名事ヲ聞テ采幣ヲ
望む時信玄ハ四十余ハ武辺ハ采幣と不免軍法なりとあるを
武功薄しハ人其詞ハ不信故に自身の功名を遂ん者ハ用ヲ且ハ大将も
武道の事ハ尋ん道ノ功者ハ用と云甲州ニハ信虎の時ハ武者奉行多
まれ去加藤淡河等一人の武者奉行ト軍法巻に云へ加藤氏武功ハ多ク
傳ハ詳ニ不詳信虎ハ相傳ハ十人の名人の内なれハ功有ん歟顕然なり軍鑑
集書侍大将ハ武者奉行大功心持ノ事とを章に加藤駿河ハ我旗なの
武者奉行ハ云付道ハ侍大将ハ武道ノ位増し調ふ大将ニハ恥に因ル
若キ者ハ武者奉行ニハ武と忠と功と歳比と分別工業と行ふを信玄
ハ指ハ使し諫ハ道者ハ撰テ仕ん故に侍大将ハ奥意ノ気味ハ
なりとハ是ハ云と他家ハ謹信の武者奉行ハ作兵衛淡河ハ
名高き人し神祖ハ天正年間の武者奉行内藤四郎左衛門高木清右衛門
名新田に見ゆ大坂ノ時御軍奉行ノ義ハ本多正信武者大将ハ安藤対馬守

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』　請求記号 848-189
ガラス使用

重治奉ゝ難波戦記ニ見タル武者奉行の用ヒタル便宜陣立月十八日
鴨野昭覧ノ時対馬ヘ作法ヲ弥ゝ日足ヲ見シハ日暮し
とゝ止ゝも等武者奉行の器と知へし太閤ノ下ル竹中半兵衛ハ武功
あれとも武者奉行ノ用ヒタル加藤左馬助嘉明カ下ル細川幽斎武者奉行ニ
名高人し加藤肥後守清正か下ル武者奉行ヒタル筆器
量秀逸〻〻名ヲ武者し

功ヲ武ハ名ヲ名ヲの事

軍法巻ニ見タリ其職相應ノ器なる武士を猪人ノ許ヲ名ヲ者ハ職トス
於武田家ニ加藤源何没後ニハ土屋隨鷹軒三枝永府齊跡部半慶
齊等の老體ヲ用ヒタル事ハ書下巻ニ見タル後ハ皆足軽大将ト
為テ一方ヲ守ル目明等ニ為ル見タル後室賀入道も勤ル夏赤書ニ
有リ此室賀大和入道室賀又作諸我武功人ナリ石水書物記ニ詞多見タリ

如此毎度其人代ル支ハ老人故久敷職難勤メ赤書下巻下
考ハ今年刑部左馬用新馬等前ハ旌ヲ後ハ職ニ任上ル毛功ヲ
以テ衆の許ス名ヲ名ヲの口傳と云武者奉行ヒタル於本藩大坂両度の
武者奉行ハ松平伯耆水野内匠ト然ニ伯耆ハ大ニ偏ト称ヲ
場数重ネテ一万三千石計ノ高ナレトモ却テ其下知ヲ用ル人ヲ多ク用ル
三千石の孫ニ何の器もなく一文不通と云ヒ人能用ヒタルと云毛則名ヲ名ヲの理ニ通ル耶
武勇深ク按ヒ云ヒ信玄ガ家ニ四十歳ヲ超ヘバ米幣ヲ不免と云又加藤
駿河守ハ本の武者奉行と云ヒ如是衆議ニ及フハ信玄五十歳計ヒ此なんス
此思ヒ加藤ハ前代以来ノ功者し信玄ハ弓矢の術ハ加藤ガ詞ヲ信用
せゝ乱假令加藤ニ賢ヲ不劣程ノ人ニ信玄の代ニ云又仕ヒ奉ル者
加藤ヲハ軽思ハ難なる〻〻信玄四十歳餘ノ時ノ料簡ニ米幣を執ル年

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

齡ハ定所ニ〆本ハ必然ニ〆意ニ名ヲ[illegible]の心持明也（前後ハ考ヘシ）

第三

一 武者奉行 勘弘所の定法ハ[illegible]得ル事

當番ノ奉行ハ螺太鼓ノ相図ハ定メ步ヲむ[illegible]夏ハ司ル六ヲ行ヒ[illegible]〆

ヲい[illegible]ヲ就中〆奉行ノ當職ハ[illegible]巻ニ〆六人ヲ相調諸法ヲ

出ス就中諸ヲ〆行列攻ハ鞭ハ方ヲ口傳ト多ト口傳ト[illegible]ハ寄到来ニ武者

ヲ行ハ[illegible]ヲ者の働キ禁制ハ備の前後ハ見切敵国ハ道ヲ出ハ少

服道ヲ行ハ或ハ橋の落ハ新ハの中間ヲハ[illegible]テ其場作リ跡ハ[illegible]馬の無キ

過ヲ[illegible]ニ心ヲ持又陣取ニハ陣場の立ハ町ハ方ハ見切ヲの遠近川ノ早ク

出ル出ヲ[illegible]ハ難ハ陣取ニ躍出ル外張ノ西所ハ定メ[illegible]ニ因テ捨篝本

篝西ハ[illegible]足軽大将ニ申付陣中ニ失火ノ戒メ喧嘩口論ハ[illegible]戒軍ニ

臨メハ非番ノ一人ハ物見先ヘ行テ敵ノ多少ヲ考或ハ敵ノ備ノ堅固成カ紛乱

ヲ見ル虚實ハ察シ或ハ地形味方ニ吾ヲ考天時ハ風雲時日ハ

[illegible]見ル凡軍ノ指揮ハ大将ト齊キハ當職ノ專ニ分別スル所ハ其武者旌旗の

両奉行ハ崩除ヲ[illegible]吾敵ハ[illegible]ハ擊取ヲ不苦或ハ非番ノ両奉行ハ先ヘ物見ニ

行敵モ物見ニ出ル千ニ一ツニ吾敵ナレハ其首取テ不苦又不慮ニ先ヘ[illegible]ハ懸合ノ

追合ハ[illegible]味方ノ物頭下知ヲ[illegible]備ハ[illegible]ク敵利ニ見ヘハ其時[illegible]

備ノ下知ハ[illegible]馬ヲ下鎗ハ合ヒ切ハ顕スハ天ノ授ハ高名ハ[illegible]勝テ後

敵ヲ打ル事一面ハ五十間ハ追ル事一里ハ半里ト勝ヲ浅シ味方ニ[illegible]ハ勇ニ

敵ハ隠ル[illegible]武者ヲ[illegible]の專所ニ支ヘの正義ハ[illegible]ト云[illegible]詳ニ知ニ夏ハ敬セ

此ハ難述吾法ハ盡スニ[illegible]妙用ヲ[illegible]事ハ末ニ論ス

附り

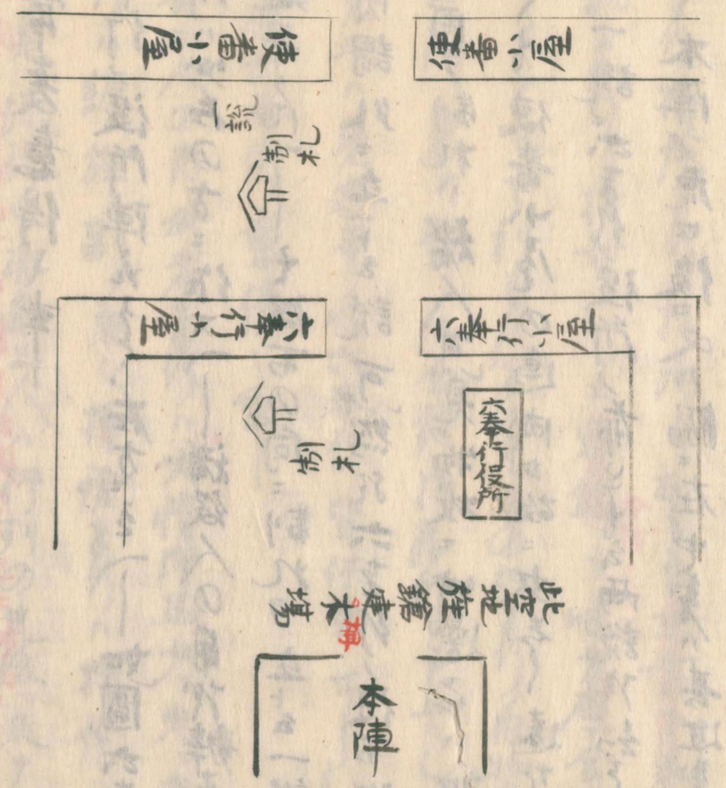
大将ヲ代ヲ諸備ハ[illegible]

大将ハ軽[illegible]諸ヲ[illegible]難キ乗廻者シ使者等ヲ[illegible]ト知ヲ致スヘシ（[illegible]進退ノ

指揮ハ大将ヘ不[illegible]ヲ[illegible]故ニ大将ニ代ル當ル諸ヲ（乗

廻リ見合ヒ下知ヲ[illegible]ヲ事ノ重キニ至ハ大将家老ト詮議メ可ナリ

物見等ハ動ハ六奉行の内非番三人の武士動ス
結構本ニハ武者奉行ニ足軽大将使者指副ヘ
旗本ハ持槍本ハ持添ヘ物見ハ指置ヘ
ニ物見物見推量シ上ニ軍鑑ニも味方原合戦の時上原能登ヲ物見ヲ
なしたる上ニ利ヲ見たる日の六奉行内物見ノ當番堂宮大和ノ道ヲ
遣さ間急ヲ歸テ注合戦注進ヲ利と上ニ又物見ノ内も大将ノ
順見又ハ見定等ノ時六奉行皆供奉ヲ
行列の時六奉行意得ヘ事
當番三人の内武者奉行ハ大将御馬先ニ乗テ見を鼓ヲ司シ旗
奉行ハ纏旌ニ副テ乗シ持槍奉行ハ持槍ハ大将ヲ守護ス間器成ニ
間テ是ニ添行シ非番三人ハ行列の先後ニ乗テ山川険阻ヲ地理
を計不混雑ニ下知ニ或ハ伏行の場ニ心ヲ付押勢ヲ置不置カ
有無ヲ知テ不時ノ
行列漫リナラザルヲ第ヲ云漫スノ上ニ如此
甚麦ヲ待ツの備ヲ成シ無沢大軍ヲ推通ス屈きの理と計ヘ
陣取常麦意得ヘ事
六奉行ノ役所陣ハ如圖六奉行の小屋ハ左ニ在ヲ
役所ハ必右の方ニ作ス一端役人の用ヲ辨ヲ必役所ヘ行辨セ
手廻早舟ヘ役所の向ニ制れヲ立ト云一説ニハ外ニ制れヲ立ト云
水関謂外ニ立ト云説可然ヘ六奉行ノ役所推槍建の柵乃木場ヘ
近キニ間テ制れハ端人可見物故ニ叉邊ニ如何ヲ外ニ立て外
やくも使番小屋の邊成カ故ニ少ク遠なる陣ハ本陣ノ内ニ置
と云一説ニ六奉行役所ノ前とも云両説ヲ知ヘ甚宜キ隨ヘ或ハ山陣
ヘ本陣ノ虎口後又ハ脇ニ在ヲ或ハ甚近キ所ニ六奉行ノ小屋ヲ掛テ
役所もを迎ニ作ヘ陣の虎口より出ル右の方ニ作ヘ



地形ニ因テ以テ大法ヲ知ヘシ其説ハ制札等ノ所立遠ヘシ制札端ヘノ
然見ル所ニ在ヘシ多ク如ハ常法ヲ知ル山陣ノ如キ変法ハ推テ知ルヘシ山陣
等ノ地形又因テ旌持陣ヲ建ルモ本陣構内ニ在ことヲ要ヘシ然ハ
鐘ノ撞カ撞不撞ヲ意得ヘシ都ヲ撞ハ外ヘ不出過制札ハ内ヘ不過
心得両不ル六奉行ノ役所ニ不可遠ル陣中ノ小屋掛等皆六奉行
ヨリ下知ス所ナレハ大形ニ心ヲ配ルヘシ

不時ノ例ハ陣中乃端用ヲ辨ス事

大国ノ家老トハ一方ノ将ト為テ大将ノ本陣ニハ不居故ニ軍中ノ端用ハ
皆六奉行ヘ達ハ定式ノ法ハ大将ヘ不伺於役所辨ス之ヲ室来事ハ
大将ノ聽ニ達ス六奉行トシテハ行営備或ハ法令戦功ニ事ニ就テ諸
務ヲ不可不辨ヲ又陣中ノ区域等ヲ月番横目ヨリ改テ上ヘ達ス中
間頭ヘ渡ス等ノ事ヨリ

一制法常變ハ用ル事

常法ハ出陣の時軍神の迎貝ハ吹セ行列ハ推出ス太鼓ヲ先ニ行列内
ハ螺ハ吹セ或ハ道ヲ進むる太鼓ヲ先セ又推止ル時も太鼓を用ル或ハ
推出ス太鼓ヲ用ル事ハ習ひ也 於陣所ニ制れヲ立ル籌貝ハ吹本籌捨籌ヲ
燃ス相図ヲ觸或ハ一二三の撞ハ打テ用意をなさしむ風上ハ不聞ハ征ヲ以テ
相傳ヘシ一の貝陣屋ヲ推出セ二の貝太鼓と交テ備ヲ立ル敵ヲ調ル貝ハ
止テ太鼓ヲ以て備ハ拵ひさせ行列ハ前に言ヲ如し敵に近テハ備ヲ立ル
太鼓ハ坐備ヲ敷キ或ハ関ノ声ヲ以テ進ム或ハ敵ヲ切崩ス太鼓ヲ打ち後ヲ
追留ノ太鼓ヲ人数ハ集メ首帳終テ其日ノ撰切ヲ成し陣関ノ儀式ヲ執行
帰陣ノ時軍神ヲ送貝ヲ用ル事皆常法し其制法ニ終法人易知ル
以て定法と是ハ甲列流ノ法し叶ハヲ用テ変ニ及テ何れも無疑惑
尋ねの事ハ太鼓十一段ノ秘傳ニ有りと秘傳と云者外ニ不可有之更ニ知へし

定法ノ外ヲ不出変し或ハ臨作ハ進むニ征ハ用ヒ引ハ貝ヲ用ヒラルヘシト云
中華の制ハ鼓声ニ進ム撞声ニ退ト云ヒ器ハ遠ふた定法と可ルしハ
法人易知ル以て要ヲ以故ニ甲列流ニ秘傳と云ハ中事し假令ハ當時
事ハ大事ノ元合鼓板或柄子本等ヲ定式の相図下部ハ知
不迷変ニ応ハ使者ハ竹ヲ下知ス変鋼ノ法宝永年中本藩
東都ノ邸内ニ用ひ来ル法定等ハ如神ヲ甲乙ノ秘訣不遠
附
押太鼓ハ拵相図作拵觸拵螺撞等用拵
太鼓甲乙流序破急二三四九字ハ表ニ習ヒ常法変法ニ
終ル変等ハ軍法巻ニ記ヲ結ぶ太鼓十段の習ニ止ル用変時ハ太鼓ニ
なし拵ハ秘傳変法を知ハ秘傳ニ有り拵ヲ作ハ軍法巻ニ見ル去ル
ま在ル儀法ヲ用ル之ハ去至ル婦しき拵ハ難ク難ク中絶ヲ用ル三十日ニ
三十と云ニモ下ル一陣ニ一ツト云ヒ 洲ん変ハ主傳有 觸拵ハ日暮ニ籌貝

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』　請求記号 848-189
ガラス使用

嗚く陣屋篠垣ノ小口ニ篝ヲ焼往来出入ヲ止メ六ヶ敷ク歩ノ士人ハ
命シテ夜ヨリ翌日ニ至ルまでの相詞ハ鐘ハ諸手六ヶ敷ク知セ係ル
名ハ又螺ハ用ヒ音不お者し鐘ハ形チ大キニ室ニ本陣ノミ在ナ且ハ
鐘ハ形小サノ音ヨキヲ以テス
鳥モ同ジ音ヲ以テシテ細ヲカクシハ取落ニシテモワラサヌタメニ
風上ヘハ小キ鉦ヲ叩く小人仲間鬮ニ支習有リ假令ハ太鼓ハ音の強キヲ用ヒ是真
器本元なり高サ寸法等ハ未支ノ迷なり是理ヲ辨テ作ル器の器ニ成ル早成
緩急ノ用ハ知ヘし金石絲竹鞄土革木ハ珍ノ作ル器ニ成ル其
制無紛れ常変ノ法ハ成ス支ハ土段ニ秘傳を得しハ自ラ成ル幸し

篝捨篝の事

篝ハ味方の出入ヲ改メ為ハ必ず篠垣ノ外ニ燃し地ニ周テ敵ヲ陣中
見セ為ハ篝塚或ハ釜篝の習有リ捨篝ハ敵ヲ通路ノ筋ヲ考テ
燃へし故ニ地形考ヘ外張ニ用ヒ篝焼キ其ハ足軽大将所為な
ル両篝ノ利ヲ計ル支ハ如此故ニ六ヶ敷其切ヲ見定メ中付ヘし猶

夜寄ノ陣法等ハ又捨別し

相図の旗狼烟等し支

旗等変法し敵合の様子ニ遠き味方へ旗を以て相図ヲ成ス支法ヲ
知ヘし旗ヲ用ヒハ十町又町計し狼煙ハ其遠き用し一里半三里迄
色し夜ハ提灯或ハ火ヲ以て数の多少ニ相図ス又六七里隔ル事ハ
書ハ家屋ヲ焼ク用ヲ以夜なれハ大篝ト名ク相図ニ如此之類仕様も有し

畢竟常変の制互ニ替ル事を知ル可き事

常法ハ諸人の耳目ヲ以て早く知セ衆軍ヲ使フ支少軍ヲ
使フ如加ク假令ハ行列ノ太鼓ハ三ツ宛ハ三ツ宛ハ三ツ宛

人数も退く或ハ纏馬幟ニ二本ノ対ノ先換旗ヲ替纏一本ヲ備ヘ
立其外の將ハ馬幟ヲ一本ヲ〻〻進退せしめ二本ハ割符のごとくなん
是皆人の耳目ヲ一ツ〻〻勇者も獨進ム事ヲ不得怯者も獨退ク
度ヲ不得の理し然ニ其法に色々敵ヲ切崩ノ後追留ノ太鼓ハ
即備ヲ立ル太鼓ヲ打ハ坐スし」是常法ノ内ヲ以て変法ヲ成スし変法
（或ハ座シタル者ヲタメスルニハ行列ノ太鼓ヲウテハ立シ又座スルニハ備立ヲ〻〻太鼓ヲ打制ニハなし）
太鼓ヲ打バ
変に臨て変法種〻用ル事も其所変スル是し云事ハ中古ハ法令ヲ中興スの職ニメ
こゝ〻し旗指物の如きも其所変スル是し云事ハ中古ハ法令ヲ中興スの職ニメ
然中武者奉行ノ本役故其ヲ知ル時ニ臨て変法種〻用ル事も其事
是ハ又合戦旗ヲ以て敵味方の耳目ヲ変スの法ハ更ニ知ベし
孫子ノ兵法し亦螺太鼓一組ハ大概一千の人数ニ用フ二千計の人数ニ二組も
如斯〻〻ハ考ヘ合ベし

第五
一武者奉ル身上人数多少の事

高祖の業ト云ふ〻も大將ニ添ク法備ヲ乗ヒ上なんハ自ラ馬廻ハ人数多カラ武田氏の
加藤清正ハ四十騎の高祖なんた其ハ子丹後ニ預ケ其一騎ヲ勤なん
其證ハ室賀入道も二十騎の高祖なんた人数ハ室賀小泉別ニ一手にて
前備の内ニ出ル者ハ一騎ヲ勤むと云り或ハ人井氏父子ヲ如ノ小祖ヲ職ノ
然ハ當家ハ祖の多少ニ依ル人数用ル事なんハ必人数ハ子ヲ親属ニ
一騎ヲ勤む信玄ハ石合戦の時山本勘助我ハ別の足軽ハ並の將ハ別ヲ多ク
諸備ヲ乗廻ル其日ハ武者奉行の勤ル事ヲ〻〻當職の規模ニ於テ
本藩大坂の時松平伯耆も我人数ハ息ニ成ク一騎ヲ勤メリと云傳ヘ

附
馬幟等ニ〻〻の事

我ニ有人数ハ指進退指揮ノ纏馬幟ヲ用フ一騎の替なんハ其用
物ヲ厭フ殊ニ熱軍の猛ト成ル當職なんハ尋常の餞ハ不入ト云但法者等ニ餞
ハ毎モ浅葱ノ本綿羽織ヲ着セリと云新編中興源記ニ内藤

軍奉行吉本主水両人 神祖御同前ニ具足法免なされ紙中用意ハ紅鮫の
羽織し本ノ采幣とゑに掛立方の六人数總下知ハ西人しとゞり先等ハ
以て考へ

六奉行自分の弓鉄砲を立て変

自家の弓矢ハ無所可施ス但得道具ニ一二挺も持ハ必ずハ
なれ其ハ用心に携へなれハ必持ハ
信玄の備ノ内トテ見たり其ニ六奉行一隊弓張鉄砲六挺馬乗二騎ハ
鉄砲六十挺馬乗十二騎ハ大合戦味方後しの時おしとゞり
小幡景憲作ニ甲陽の軍法書諸家ハ
叶理更ニ無なり加藤清正の下ニ仮田光三毫角左馬等ハ武者
奉行ト号し足軽を多く預し変ハ指引し出ず動助の當番ハ動ずる類ハ
於武田家ニ大将ノ守護ハ特殊二十二騎ハ成書ニ信玄数多

領して小手足軽とそ各七十五人三組ニテ一組ニ小身の小武者ハ騎の外ハ
三一我 仮妙公の射手異風の士ハ近習ニ石使ハ等ハ其守衛不成
変し景憲の作書ハ六奉行ニ指引し足軽のことハ不足以用

第六

一 惣武者奉行の事

愚按總字ノ用様ハ文字ニ不拘ト云ヘ
至テ鄙陋ナハ論之總追神
使總官ナトニテモ可考然
ハ副武者奉
行ナトハ云テ可ナリ

於武田家一隊合の武者九隊ニ手者下惣ニ見なれ足ハ増減ハ見たり
波全備衆等初ハ總武者奉行の内たれ武利武都戦死の後其目心の内ハ
前
列備の内ニ入る士大将の指となれ惣武者奉行の所動れ武者奉行ハ
其日の夕砲下知等ハ隊ハ来ニ一ト傳者奉行まてハ変不相成
其助し軍鑑ノ考ニ成ハ城ノ士卒ノ筋ハ時ハ叶惣奉行の内ニ三人も加置等
の事ハ城の月作賞検使の云ハ通ス陣の時ハ前備の仕ハ
陣ニ入る備ノ内ニ使者所動ハ似テ少一ハの遠ノ所ハ武者奉行合テハ変性ト云内
名目ニ依テ変ニ論ス

附り

化家といへとも是ハ似たる役ハ使者ヤ用意事

新田武備軍要ニ武者奉行両人ニ指副諸手ヘ廻リ見聞ル所ハ大将ニ山本市右
衛三助人道伏信 柳原集助 木田左門 村上宗左 小田切大隅トシテ其次御使番三宅伝次郎 小栗大市 山本新兵衛 大久保市郎左衛門 荒木八
郎兵衛 横田主水 小幡郷助 加藤傳左 米津清左 酒井与九郎 ソノ以上見ル
使者トノ指別紙ニ付リ此ハ使者ノ内ニハ横田 柳原ノ類ヲ申測ル洗小田切
ノ類ハ小一人ニ武功ニ達セル者ニ同ジク甲ノ少ラハ若ク所勢不堅ル故使者ハ
必大将ノ下知ヲ以テ乗上ノ此ヲ云ヒ武者奉行ハ指数ニテ法ヲ立リ不足ヲ
補ノ達ヒ此ハ其理ハ相通セヘシ 作者ノ下ニ赤母衣黒母衣ノ属ト云
モ当時ノ使者トハ少シ不遠 色紙ノ赤ノ下ニ黄母衣ノ属ヲ外ニ
使者ヲ為ル此ハ他ヲ以テ 物武者奉行ニ似タル役ヲ少ノ達ヒ
考ヘシ 中藩 傾如ノ時 他ヲ以テ功ヲ成者ハ全弱役ヲ以テ法ヲ
乗上ノ指ヲ為ヘシ 中藩ノ武功ヲ者ハ使者トシテ旗ナノ下知ノ味

第七

一先手ノ武者奉行諸手ノ武者奉行不ル乃変

武田家先手ノ備頭ハ若一人ニ六騎ヲ以テ十六騎ハ旗ナサノ者ヲ指ス故ニ
出陣ニ市場一人ニ五千ニ乃ル人数ヲ以テ新参降参ノ先方ニ交ル此一人ト
ナシ下知ヲ為ル武功薄キ士ハ組勢ヲ故ニ備頭ニ科等ヲ副ル未聞
ヲ免シ下知ヲ為シ情ヲ達一人ハ二騎ヲ十備ニ先ヲ勢ヲ上編ノ家中ノ
士ヲ以テ六騎ヲ足等ヲ推ノ知ヘシ 市書下巻ニ 五十騎一備ヲ記ス所ニ
組頭ニ騎ヲ侍大将ニ騎ヲ以テ武者奉行ハ足軽ノ如ク 基備ヲ
乗廻シ下知ヲ成ヲ云 指中ハ 五十騎一備ノ内ニ大頭一騎小頭一騎武者奉行
一騎
ヲ以テ大頭ハ則基ノ士大将ノ子弟 従子等ヲ以ル外ニ
功者一騎ヲ武者奉行ヲ以テ 基備ノ下知ヲ成ヲ同ジク 五十騎一備ノ内ニ達ヲ変ル

其士大将の武を巧拙又ハ孫の多少によらず格子番ゴ一備の内三の武者
きりハ少し不足一或ハ小備に至ハ旌長柄の者きり非者の二隊其備ヲ
乗廻し下知をれハ即武士きりの働よ似テ云きりの格子し
附
一手球別手わしきれ何武者きり一手球清九事
非書下卷 下四 二十隊一備ヲ士大将下知スヲ又百騎ヲ二備に成付ハ武者きり一人士大将
と各一隊ヲ清九一手球列手して陰の備陽の備ヲ持合鉄ヲなんとあり
如此なれハ武者きり一手球下知一進退指揮きと(是モ)前云カ如
子弟従子なとに云筆に賢者士に云ハ十一隊ヲ渡ス(べし)又七隊ハ隊
も云る士大将ハ其内十隊に云銃十挺計添ヘヲ跡に備ヲ立二の
軍ヲ持(スルヤハ)猶負不危トも叶ハも小頭に云ハ功者必一隊ハ武者きりに指
揮きべ

諸手の武者きり制法常変動れし事

定法ハ旗下(本)の云奉行きり其変状聞テ動ヲ変法に至ハ迫合の時なと若部
ハ下知ヲ待スベし故に常変ヲ能知り定法ヲ受ヲ示し変法ヲ能握奇スベし
如此なれハ旗下(本)の云きりに所遠か有り

一武者奉行武功の事

第八

職たる者ハ法備の物合ヲ知り敵の虚実に因テ敵と我とのうち真草ヲ
考へ味方の備ヲ立整軍中の定法ヲ知り合戦の変化ヲ物見に出ヲ敵情
ヲ察し士大将以下ノ法役人の所ヲ務ル者と好悪ヲ知り戦功の大小真草ヲ正し
武道の虞貶に碎心なり大将の不足ヲ補と其情ヲ察メ(来)発言ヲ其変ヲ熟(ノニ業)
或ハ其言ヲ待り其変ヲなり薄変自在の妙ヲ得の人に成るもの人ハ此職を
ヲ難し此に徴スル人稀なれに各きりの傳アんり甲乙ト云共徹底ノ
人なる者に因テ若(キ)少(カ)知(ル)ヲ其身非(メ)武者きり行に所務ハ武者きり行なる事
其人ヲ其任と其況味なる甚重職なり共定法の制合ヲ下し普通の変ヲ

至ルトハ名ヲ上ルノミニシテ其勤ニ別ク事ハ相（きと）今井氏ハ雄高ヲ以テ発動
ヲ因テ武者奉行ノ業ヲ見覚ヘタルヲ当職ニ任ズルヲ可知其子新蔵モ
父旗本ノ時ヲ相副ヒ当職ニ移ルモ同ク相添ヒ父子ノ親ヲ以テ其業ヲ
見習ヒ事ヲ学ブ子モ又功者トナルヲ非常ニ今井父子武者奉行ノ父ハ信玄ノ感状
十二通ヲハ七通武功ヲ士トスリ給レハヨリ副ヒ玉ヒ其妙ヲ
得タルノ真ニ至レハ不通ナル事職ノ微細ヲ知盡ク別ヲ業ヲ達シ不宜ヲ
武者奉行ハ石河中務等ノ戦ニ出ル道鬼カ如キニ至ルハ其才智ノ及ヒ難キ如此ノ
時處位ナレハ假ニ勤ムルヲ武者奉行ノ用ヒ達セシムルヲ人ヲ情ヲ
ナリ常常定法ニハ不用ヒ事ハ足軽大将ヲシテ又迫合等ノ時ハ其統ヲ
使ヒ大変ニ至リ其妙ヲ使ヲ加様情ヲ下ニシテ番手ノ為ニ怪大将ヲ
武者奉行ナルヒトモ是ニ似タル甲陽ノ名高ク人ノ足軽大将モ此位ニ至者那

附
合戦勝敗一二陰陽ノ機ヲ知事

小ヒトナル大トナル戦術ノ基ハ是シ一二進退ノ塩合陰陽奇正ノ変ヲ察シ
勝敗ノ機ヲ先知ル事ハ皆長所ノ習ニ既ニ此ノ機ヲ不知ル
当職ヲ勤ムル者モ猶ヲ般ノ用ヒ様ヲ如ク是ヲ不知ヲ時職ニ任シ
此職ヲ勤ル者ハ可知之ト雖ニハ此ヲ不知ニテハ此職ニ任シガタカラシ故ニ人ノ跡ヲ以テ其習ヒヲ
味方ノ戦術害ヲ利セ事ヲ

勤ムル者ハ石ノ甚功ヲ別ル敵ノ備ヲ南ヘ向ヒ北ヘ
ヲ可見又河中島戦ニ赤日勤ム課ノ遠ル所ノ陣信競来ル晴行
甲陽ノ備ヲ立ル所ニ危ク軍ニ卒ル巻ヲ後世ヲ遺ス是真戦略ノ一身ニ
委テ如此後人学知ス（歩）所ナリ

物見ヒトツヤ敵ノ情ヲ察ル事

凡物見ノ業ハ不可不知ル拙ニ視観察ヲ
隠ル敵情ヲ知ル事ヲ拙ヒ事ヲ習又一編ノ書ヲ熟察シ或ハ古人ノ真
理ヲ徹ル跡ヲ可知海野平ノ武田長尾西将ノ対陣ノ時出ル

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』　請求記号 848-189
ガラス使用

晴れ物見ヲ善シ敵情ヲ察シ甲乙の備ヲ立碁盤の事ハ真の武者振の業ニ
ハ物見真見ヲナシ敵情ヲ察知スル上の事ハ為ス者を我方の害ヲ移シ〳〵
戦利ヲ得ル事ハ〳〵〳〵ハ其業深シ〳〵ハ不可言其変蹟ヲ鑑ミ之ヲ
其人の心識の厚薄武功の浅深ヲ知ル〳〵

敵味方の可算の板挟論〳〵知事

勘人然諸国の風俗富の盛衰ヲ考ヘ城ヲ陣ヲ備ヲ迫合会戦武器知器
計策六敵真草の擬作衆寡主客大小攻守の用ヲ知ル事ハ兵法の
至極ニ且天文軍配人事の取捨地理ヲ人ノ所位ヲ知ル事甲乙流儀
其事に寄〳〵是ヲ知ル盗ヲハ当職最上の要学ニ徹ス其實
形ニ通ス人蓋鮮シ戦国といへ共ハ鬼畜勘人道晴れ所頗ル稀シ

第九 武者奉行 治国

一当職治世に至〳〵事

大坂軍の後天下ニ当職者有兵事宜有之東都既無之候国猶
無之宮津城主京極丹後守身上滅亡の時受城使等城下へ向ヒ京極家の
諸士残渋の訳を聞ハ九〇〇ハ跡潰ヲ〳〵〳〵陣国ヲ酒井修理亮の
領地若狭ハ濱へ東都ヲ指遣ヒ酒井の家士国ヲ奪ハ小情景憲の弟子
なるに因テ武者ヲ為ル可ルやと 家紀公 厳有公の御内聴に達〳〵上意ヲ〳〳

附

江戸大目付の記録ハ準ス之事 此職ハ治世に初ル

大猷公 家光公 寛永九年壬申初ル柳生但馬守水野河内守秋山修理亮三人大目付仰
命セラル後北條安房守氏長ハ当職ヲ今セラル若劇劇の時の武者振
ヲ中ス御心当ト云其所勤諸役所へ通〳〵行逆の場へも指加ヘ状言ヲ見聞の
職ヲ天下の法度書状も当職ヲ為ル御ル治世の武者振ヲ行ヒ了言
ル世〳〵推移当府ハ員数も四人となる主所務次第に許多となる職掌
却テ威薄〳〵ヲ超出セル役多なれハ今に至テ昔の職ハ為ル者のなる

最初ハ軍国の武者を行治世の弾正臺の意を命ぜらるゝ事
なり津田源左衛門中川八郎左衛門賀藤左衛門三人大坂目付役を命ぜられハ
東都の大目付役模せられたるなり

其職與奪共に宣事

凡武家文官の與奪ハ拾く不妨武職に而の與奪施受ハ武士の
望ましき所なり就中武者大将武者奉行等ハ特に宣旨を蒙ること
嘉明の任地水秩二拾万石に拾武者大将に命じ国中の武者一人の米幣定りし
嘉明卒後息武都太輔代に至り主水の米幣取放つへきと仰られ上意
とゝ申事なりしを水ハ国を去る紀列に却り且武都の隠事を東都へ
訴へ因此武都領国代も主水を殺害せん事を願ひ遂に主水を捕へ
縛首に斬に於是武都も領国滅亡を酒井氏の聞に及ひ既に経上聞
武者奉行なる右なる武官を望事 王朝とゝ共如此平治の乱ハ信敬の

大将を望ましきなり武者奉行なる和田の侍所別当たる梶原の一日備を不及と云
事なり施受共に宣事 事藩ハ求辞メ不兼因て閉門の罪に命ぜられ此時寺社奉行
再に辞して不受ハ也た思召有の由なり法令兼服せしむ之を旌奉行に
命じ後加秩千石賜り馬廻頭なり拾も殊に辱の思召とゝ旗奉行命
下り附沢を賞賜後補見屑服田九郎左衛門後補如沢の許へ使を拾武者拾
命ぜられ其職ハ某なと可成とのこと心得ハ事なり意所可言上と思ふと云
根田答て云ふ其方心得違なり武者奉行なる仕ハ武者奉行なる事ハ方位なりと云ふ
武者奉行ハ可勤と思ひ見たりと又治世に六奉行の内旗捻の事
のみ名目もあれハ望思ふ名誉事なり事なり行ふ事なり事なり

第十一 武者奉行ハ畢竟人なり 極秘事

武官職其違了知へき

常職に任ず法令制法ならびに下知状加に年戦功武勇ならざるは難遂所を
故に名ちらの傳あたらず畢竟士卒以上人心の服せざるを者ども用ひ老人を
ならざれば多は老人を用ひ其年老たるを服せしむるの道理
附
戦陣第一の重職中身以下の士乃至所々に幸
旗本に居く諸々の幸ひ用ひ知ることなり其一の重職と云職を呼くこと
役ども言ひ大将のものは先々の頸ひ動く或は陣場を乱し或は番備
の頸等所務甚多く就中武者大将等の重職を中間以下の士は其
所務に迫合足軽働或は小城ひ守ることなり武者ども乱ハ
一陣ひく進退ひ諸備ひ指揮或は敵に臨く千二千と自身の
功ひも立ん事を故に中間小間の士の望べき職なり自望ども人
の心職に用ん器にあらざれば不叶事
職に任ずれば相意と云へ今世武士の如き是也
職に非ずして智謀の本意ひ知るべき事
名ちらの職又は老兵ども是に任ずる等者に見ひ事の職に臨く出
動以甲冑に幸ひ石もなく手功も未頸戸石の雑戦に非ず職に任ずる職
の骨髄ひ動ず他は職名を不波共滿軍の進退ひ一心ひ用ず
其機ひ一身に任ずと思ふの士は職骨髄と爰職に任ずる不若
加藤清ひ毛ハ皮肉と云へ是ひ論と立ず事ハ非職に而も其
ひ得と欲ずる者の幸し
治世ひ雖無職準職之機為武士者を望不可捨事
北條氏長ども大月分に任ず等ども知べ名月ハ異なり
士ひ武者本意ひ思ふ
右武者奉行ノ意得甲冑ノ書傳ヲ本トし百年以来他家ノ
支蹟ノ考所述如是品類十章附節三十箇條合ヲ

848
189

四十ノ挙目ヲナスヲ時享保二年丁酉初夏二日　有澤武貞

トイヘ共物見ノ実理矣法ノ通利ハ爰ニ記スニ不堪故ニ其當然ヲ思ヲ其本末ヲ正シ知ノ便トセント思ニアリ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用